

こころ21だより

会報 第33号

2016年(平成28年)12月25日発行

事務局

〒730-0856

広島市中区河原町7-2 徒然社内

TEL 082-292-4507 (金子)

FAX 082-292-4508

E-mail: kokoro21@tsure20.co.jp

NPO法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21

発行責任者/理事長 岸房康行

～ NPOこころ21 設立10周年記念事業 ～

フォーラム「家族を育む弁当の日」開催

平成28年10月29日(土) まちづくり市民交流プラザ

理事長 岸房 康行

NPO法人こころ21 設立10周年記念事業としてフォーラム「家族を育む弁当の日」を10月29日、広島市まちづくり市民交流プラザで開催しました。会員、学生、PTA関係者など80人の参加者が講師の話に耳を傾けました。

講師の竹下和男先生は、子どもが作る弁当の日提唱者。実践を踏まえた説得力のある内容で参加者一同聞き入っていました。とくに印象深かったのは、親に手伝ってもらいながら作っていた弁当を、全部自分で作った友達の様子を見て、多くの子どもが自分一人で作るようになったとお話でした。そして弁当作りを通じて家族との会話が弾んだ様子も伝わってきました。改めて手作り料理が家族の絆をより深いものにしていくことを再認識させていただいた有意義な講演でした。講演終了後に竹下先生の図書を販売しま

したが、飛ぶように完売したことを見ても、参加者が講演内容に満足していただいた証しだと感じました。

心豊かな家庭環境づくりは、「食」を中心にした活動が重要なことを再認識したフォーラムでした。



参加者の感想

会場に入った瞬間に、「はなちゃんの味噌汁」で泣けました。一緒に行った友人も感動していました。(石根 真樹子)

以前は料理をすることに関して「女性がするもの」「別にできなくてもいい」と考えていましたが、認識を改め、今は豊かな人間性を育む上で料理が持つプラスの側面を意識しながら生活しています。ちなみに講演後、試しに料理を始めてみたらハマってしまい、今では週2回ほど自分で料理を作っています。(修道大学・桑原 清治)

第9回 NPO会員研修・日帰りバスツアー

城下町・東城まちなみ & ベンガラのまち備中・吹屋ふるさと村

●日時：11月5日（土）晴れ 7：35 発 19：05 県庁前着 ●参加者：22人

地域の歴史・文化について知識を深めただけでなく、過疎になり疲弊していく農山村部の町おこしのご努力とご苦労なども、知ることができました。



備中・吹屋ふるさと村、広兼邸をバックに記念写真



ヤマモトロックマシン（国登録有形文化財）

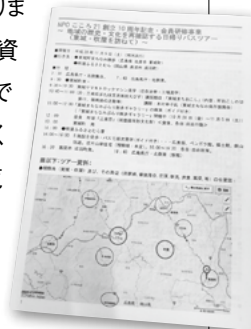


吹屋、ベンガラの町並み

資料差し上げます

「地域の文化・歴史を再確認しよう」という趣旨で始まった会員研修・日帰りバスツアー。平成20年に山口県上関町室津・祝島を訪ねたのが始まりです。今まで9回のツアーを開催しましたが、訪問先の資料作成は森保洋之理事（広島工業大学名誉教授）にお願いし、現地での研修に大いに役立ちました。

資料を基に再訪したり、知人に配布したという事例もあります。ご希望の方には資料を差し上げますので事務局までご連絡ください。研修先一覧は1月発行予定の設立10周年記念誌に掲載します。



（高東 博視）

初めて参加したバスツアー

NPO 会員 川西 勝文

バス旅行はあまりしたことがないので、退屈な気分になるのではないかと不安でした。しかし、ガイドされる方々が上手で、車中の自己紹介などでいろいろな話を聞いているうち、大変和やかな雰囲気になりました。このようなグループとご一緒させていただき心から感謝いたします。

紅葉を期待しましたが、11月というのに温暖なため残念ながらまだ早かったです。最初に訪れた東城町では、地域を活性化しようとするボランティア団体の並々ならぬ努力に感動。古い商家を観光施設として手を加え、古き良き時代を身近に感じました。また昭和初期の木造建物が工

場として現在も稼働しているのには驚きました。天井が高く窓も縦長で採光を十分とっており、松と栗の太い角材を使い強度的にも優れたもので、昔の人の知恵は素晴らしいものです。

次に訪れた吹屋ふるさと村では、ベンガラ製造販売で財を成した人々によって、豊かで美しい町並みが見事です。とくに要塞のように高い石積みの上に建てられた広兼邸には、さまざまな工夫と力強さを感じました。一方、ベンガラ生産の過程で公害が発生し、作業員は短命であったという話を聞き悲しい気持ちになりました。

森保先生（元広島工業大学）から事前に車中で地域の歴史文化や施設概要を説明してもらい、本当に有意義な研修旅行でした。

子どものための音楽プロジェクトを開催 (公益財団法人マツダ財団支援事業)

こども夢コンサート

企画・協力／エリザベト音楽大学
10月24日 みゆき保育園、草津保育園
10月31日 東浄保育園、戸坂保育園

出演者／
折河 宏治 (准教授)
入江 茉奈・江口 諭維
重本 ゆうき・山岸 優衣奈
中島 詩織



男性の張りのあるバリトンの歌声に目を丸くし聴き入り、会場いっばいに笑い声が溢れ物語の中に引き込まれて行きました。

女性の澄んだソプラノの歌声と、園児の歌声が一緒になり広がって行きました。



感想

- ・ 3歳未満児も楽しい雰囲気を感じ取り、体を揺らし、手拍子をしながら最後まで見入っていた。
- ・ 本格的な歌声とドキドキさせる演出で、子どもが集中して見ていた。
- ・ 子どもたちは、ベルみたいに歌える人になりたい。レットイットゴーと一緒に歌ったのが嬉しかった。また来てくれるかな?と話していました。
- ・ 終わってからもきれいな声を出し歌い合う姿に、豊かな情操を育むきっかけになったと思います。
- ・ 発表会を前にした子どもたちや保育士には参考になり、とても良い経験になった。

次回開催予告 こども夢コンサート

企画・協力／エリザベト音楽大学
2月21日(火) 10:00～11:00
船越幼稚園
(幼稚園・保育園交流事業)

こども音楽体験教室

企画・協力／広島文化学園大学
10月4日 山本保育園
10月25日 舟入保育園
11月22日 ロータスプリスクール大芝

奏者／長増 野枝
指導／末永 雅子(教授)・高橋 千恵(講師)

一人一人絃に触れ音を出す体験で、きれいな音が出せ、ニコリ! どの子もスキップしながら退場して行きました。

順番を待ちながら、興味津々。
友達の様子をのぞき込んでいました。



感想

- ・ 箏の演奏を前のめりになり、正座してかきこまった様子で聴く子もいた。
- ・ 箏の形の由来や、つめは何かからできているかなど、子どもの目線で分かりやすく教えてもらい、子どもたちはとても興味を持ったようだ。
- ・ 普段あまり耳にすることのない箏の音色に癒やされた。
- ・ 日本の伝統文化に触れることができた時間だった。
- ・ 箏を間近で「見る」「聴く」「触れる」という三つの体験を同時にさせてもらったことは子どもに響き、印象深く心に残りとても良い企画だと思う。



(木時 寿子)

「カレーづくり大会 in 舟入」10回目を開催

舟入学区で初めて開いた大会が平成 21 年 12 月 20 日でした。それから、法人内でも紆余(うよ) 曲折がありながら今年でなんと 10 回目を開くことができ、大変うれしく思います。

このイベントも今では、3 カ所の学区で実施されています。舟入学区以外については、広島市の子どもの会の指導員研修会の席で、舟入学区役員で私たちの法人の会員でもある山野進さんが、このイベントを紹介したところ、他の学区の人たちからも興味をもたれるに至りました。そして、大芝学区、山本学区での実施につながったものです。おかげで、私たちが目指す、「たくましい子どもを育てよう」とする考え方が幅広く理解されるようになったと自負するところです。

今回の舟入の大会のときに、初めて参加の保護者の方に感想を聞くと、「参加前に想像しているより遙かによかったです」と。また、3 回目参加の方は、「だいぶ口や手を出すことが少なくなりました。そして、ほうっておいたら子どもが自分たちで結構いろいろなことができるのがわかりました」と語っておられました。参加者の満足度は相当に

高いものだったようです。

一方、開催も続いていけば伝統文化となり、地域からも評価され、事業への協賛社、協賛店も増えてきています。子ども会の財政にも貢献できるようになっています。舟入大会の協賛ということでは、JAグループ広島から米・ジャガイモ・玉ネギ・ニンジン、ハウス食品からはカレーのルー・玉ネギのペーストを初回から継続してお世話になっています。また、ハウス食品からは他の 2 学区も毎回協賛いただいています。感謝申し上げます。



今年度のカレー大会開催実績

- ・山本学区 / 7 月 3 日(日) 参加者約 140 人
- ・大芝学区 / 9 月 25 日(日) 参加者約 130 人
- ・舟入学区 / 12 月 11 日(日) 参加者約 140 人

(金子 敏郎)

会 員 紹 介

ひとり旅が...

末永 雅子

時間を作っては、ひとりで旅に出ます。海外に出かけることもあります。九州や山陰、日帰りの小さな旅も大好きです。行先と宿泊だけ決めて、ガイドブックも持たない行き当たりばったりの気ままな旅です。

観光地ではないところにも出かけるので、たまには失敗もあります。五島列島の^{おじかじま}小値賀島で古民家を借り、新鮮な魚を買って自炊をするつもりでしたが、スーパーでは生の魚類を売っていません。



聞けば、子どもも大人も自分が食べる魚は自分で釣るものとか。夕方になれば、海辺で釣り糸を垂らし、家の外で魚をさばいて夕食にするのだそうです。釣りのできない私は、缶詰と魚肉ソーセージで過ごしました。ネットやガイドブックではわからない貴重な経験でした。

写真は、ドイツの小さな博物館で試弾用のピアノに触っていたところ、博物館の方に手招きされ、事務室の奥に納めてあった古くめずらしい楽器を弾いていいよと言われ、ご親切にも写真まで撮ってくださったときのものです。これもグループやツアーでは巡り会えないチャンスでした。

この冬も、雪の降る静かな場所で過ごす予定です。

編集後記 今回の会報は 10 周年記念誌の制作と同時に進行しています。歴史と現在を同時に見ながら、今の状況を見つめるいいタイミングとなっています。フォーラムなどの開催では人集めに苦勞すること、カレーづくり大会においては刃物を使ったりするため、何かあったらどうするのかという責任問題への対応のこと、音プロ

については演奏サイドや開催場所など多くの関係者との調整のこと、「大変」を克服することがわが NPO の役割なのでしょう。

今年はカーブの快進撃でにぎやかな広島でした。来年も楽しい年でありますようにお祈りいたします。

(金子 敏郎)